

つぶやきも 叫びも 欲望も、
ぜんぶ人にきこえてしまう(ことを彼は知らない)。

天才の裸のココロの物語

サトラレ

TRIBUTE to  SAD GENIUS

安藤政信 鈴木京香 内山理名 松重豊 小野武彦 寺尾聰 八千草薫
監督 本広克行 原作 佐藤マコト (講談社「モーニング新マグナム増刊」連載中) 脚本 戸田山雅司 音楽 渡辺俊幸
製作/「サトラレ対策委員会」日本テレビ・ROBOT・スタジオオジノ・栗室・博報堂 特別協賛/TRIBUTE link. 制作/ROBOT 配給/栗室

悲しき天才に捧ぐ。

心で思ったことすべてが、周りにいる人に悟られてしまう、1000万人に1人の確立で存在する「サトラレ」。
ウソばかりの世の中で本音でしかコミュニケーションすることができない男が、
あなたの中の“大きな愛”にそっと語りかけます。

里見健一、医者、25才。幼い頃両親を飛行機事故で亡くし、祖母と二人暮らし。普通の街で普通に暮らす彼だが、実は常識を遥かに超える知能を有す“天才外科医”だ。そして、今どき珍しい程あまりにもピュアな心をもった好青年。そんな彼には、たった一つだけ秘密があった。それは「サトラレ」であること…。しかし健一は自分が「サトラレ」であることを知らない。周りの人々は健一のどんな「心の声」が聞こえても、聞こえないフリをしているからだ。自分の心が周りに筒抜けだと知れば自殺もしかねない国家的財産の知能の持ち主である「サトラレ」に「サトラレ」であることを「悟られ」ない為に、毎日が大混乱になっても町全体、さらには国中で彼に“ウソ”をつきとおす！ 健一を見守る人々は、時と場所を選ばずに聞こえてくる彼の心の声に戸惑いながらも、自分たちが見失いかけた「本音で相手と向き合う」大切さに改めて気づき始める…。そして物語は、健一の祖母キヨの“思わぬ出来事”をきっかけに感動のクライマックスへと急展開し始める…。———もしかして、あなたもサトラレなのかもしれない。



サトラレ

TRIBUTE to a SAD GENIUS

「踊る大捜査線」の本広克行が、21世紀の幕開けに
全く新しいハートフル・エンタテインメントをお届けします。

スピーディーなストーリー展開と斬新な編集で映画史に新境地を切り開き、圧倒的な支持を受ける本広克行監督が、21世紀の最初に選んだテーマは“泣き”のエンタテインメント！ いままで見たことも聞いたこともない「サトラレ」というキャラクターを主人公にして、誰もが感動せずにはいられないとっておきの映画を創り上げました。この作品に賛同した最高のキャスティングが実現——主人公の「サトラレ」天才医師・里見健一役に若手実力俳優優の安藤政信。その「サトラレ」の保護観察官・小松洋

子役には好感度ナンバーワンの鈴木京香。また寺尾聰、内山理名、小野武彦、そして八千草薫の豪華メンバーが脇を固め、それぞれが個性的な役柄を演じながら「サトラレ」との不思議なコミュニケーションを見事に表現しています。制作は「Love Letter」「踊る大捜査線 THE MOVIE」「ジュブナイル」など、最も優れた映像感覚で話題作を提供し続けるROBOT。いままで見たことのない最高のハートフル・エンタテインメントにご期待ください。

監督/本広克行 安藤政信 鈴木京香 / 内山理名 松重豊 小野武彦 / 寺尾聰 / 八千草薫

原作/佐藤マコト「サトラレ」(講談社「モーニング新ワタムシ」連載中) 脚本/戸田山雅司 音楽/渡辺俊幸
製作総指揮/萩原敏雄 製作/横山茂幹・阿部秀司・鈴木敏夫・高井英幸・小野清司 企画/戸谷仁 プロデューサー/奥田誠治 井上健・堀部俊 安藤親広
撮影/藤石修 照明/水野研一 録音/戸原邦雄 美術/部谷京子 装飾/赤塚佳仁 編集/田口祐也
ラインプロデューサー/竹内勝一・羽田文彦 監督補/羽住英一郎 制作担当/鈴木嘉弘 キャスティング/守屋圭一郎
製作/「サトラレ」対策委員会/日本テレビ・ROBOT・スタジオジブリ・東宝・博覧会 特別協賛/TRIBUTE link. 制作/ROBOT 配給/東宝 ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ www.satorare.com



日本国内には現在、7名のサトラレが確認されています。その全員が例外なく10180以上の天才です。
サトラレはわが国の財産なんです。当人は自分がサトラレであるとは思っていませんよ。
あの子はただただ正直なだけなんです。



奴には決して自分の正体を知らせてはいけないんです。
サトラレである限り傷つく可能性のすべてからそれを守らなければならないんです。
サトラレだって人間です。自分が何のために生まれてきたのか知る権利はあるはずですよ。

観終わった時、きっとあなたも「彼」を愛している筈。だって、そうせずにはいられないから。

2001年3月東宝洋画系ロードショー
有楽町マリオン前
ニュー東宝シネマ
☎ 03(3571)1946